

令和 7 年度 静岡市公共事業評価委員会会議録

1 日 時 令和 7 年 12 月 18 日（木） 14：00～15：30

2 場 所 静岡庁舎 新館 9 階 特別会議室

3 出席者

（委員）小川 浩委員長、居波 智也副委員長、小川 敬多委員、松浦 高之委員、
島田 久美子委員、八木 紀彰委員

（事務局）朝比奈 信之建設局次長兼土木部長、中司 淳参与兼建設政策課長、
秋山 祐一管理・用地係長、小長井 香織副主幹、伊東 久貴主任主事、
岸本 祐希奈主任主事、青島 英里主事

（説明者）

〔道 路 計 画 課〕 尾焼津 健参与兼課長、大村 和也係長、植田 淑人副主幹、
田中 夏樹主査

〔下 水 道 計 画 課〕 石上 裕参与兼課長、鈴木 亘主幹兼係長（河川課※下水道計
画課併任）、高嶋 慶治主査（河川課※下水道計画課併任）

〔景観まちづくり課〕 細野 剛担当課長、望月 藍主任主事、内野 龍之介主事

4 傍 聴 者 なし

5 議 事

＜審議案件＞

- | | |
|--------------------------------|----------|
| （1）補助事業（改築）（市）葛沢 2 号線（再評価） | 道路計画課 |
| （2）補助事業（改築）（主）清水富士宮線（事後評価） | 道路計画課 |
| （3）大規模雨水処理施設整備事業（追分二丁目地区）（再評価） | 下水道計画課 |
| （4）社会資本整備総合交付金 市街地住環境の再生（事後評価） | 景観まちづくり課 |

6 会議内容

- （1） 補助事業（改築）（市）葛沢 2 号線（再評価）
＜道路計画課 説明＞

小川浩委員長 ただいまのご説明につきまして、委員の皆様からご意見あるいはご質問ありましたらよろしくお願いいたします。進捗状況、そして最後に次年度以降の工事の予定までご説明いただいたわけですが、いかがでしょうか。

小川浩委員長 はいどうぞ、島田委員。

島田委員 台風 15 号の被災に伴う応急復旧があつて、測量及び設計期間の変更とありましたが、何を変更したのかというのと、切土掘削量が増えたというのは、どういうことがあつてどのぐらい変更して何が元と後と変わったのかというのを聞きたいです。あともう一点、中山間地域には高齢者が多いと思いますが、スマート IC を利用する料金が負担になって、お金がかからない旧道を通る人もいるかと思っています。そうすると旧道にあまり人が通らなくなり傷んだりすると、ますます安全から遠ざかる危険性があると思うのですが、そういう懸念はないのか伺いたいです。

小川浩委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか、お願いいたします。

道路計画課 まず、切土掘削量の今回の変更に伴う分ですが、台風 15 号の影響も含めて地質調査の結果で地盤が脆いというのが判明しました。今までかなり立った勾配で切土を考えていたのですが、勾配を寝かせたものですから切土量が増えるという形になります。スマート IC で利用料金がかかるというところはありますが、安全で比較的まっすぐな道路になるものですから高齢者の方でも有利に使えるのではないかなと考えています。

小川浩委員長 どうですか。

島田委員 それではその IC から静岡の街中まで出るのに料金は片道おいくらになるのですか。

道路計画課 実際は開通してから料金設定されることになるかと思いますが、想像だと 500 円にいかないくらいだと思います。

島田委員 往復で 1000 円だとすると、例えば高齢で国民年金の人は月の収入が 7 万くらいのご家庭もあると思いますので、1000 円は安いのか高いのかというのは評価が分かれるところかもしれないなと思いました。

小川浩委員長 やはり料金は高齢者だけでなく、色々な経済状況を見ると厳しい部分があるのかもしれませんが、無料というわけにもおそろくないかと思いますので、できるだけ高額にならないように検討していただきたいと思います。他いかがですか。はい、では八木委員どうぞ。

八木委員 静岡清水の方から中部横断道上がって行って富沢まで行くと、途中で何もなくて、このあたりにどうやって生活しているのかなと思うことが多かったんで、この事業はすごくいいと思います。清水区は海も多いですが、山も結構多い地域なので、清水区の北部の重要な交通インフラの拠点ができるのはすごくいいことだと思います。この拠点ができて、今後継続的に市の財

産にしていくという目線で考えたときに、例えば今この地域の人口が減っていている状況だとしたら、今いる人たちの利便性や防災や医療の関係で作ってくださっていますが、人がいなくなっていったらどうなるのかというのも少し寂しい話です。これは観光の振興や地域活性化というところに入ってきますが、例えばこの清水区の北部の方に移住する人、そういうことを視野に入れた施策を、他の課も含めてですが、静岡市として今後やっていこう、描いていこうとお考えでしょうか。

小川浩委員長
道路計画課

いかがでしょうか。

移住に関しては別の部署でメインはやっていますが、あくまでスマート IC ができて、ネットワークの拠点ができれば、キャンプ場や観光振興ばかりではなく、地域の活力の向上にもつながるかと思うので、そのところで移住の可能性というのは少なからず上がると思います。また、他部局とも連携して進めていきたいと思っております。

小川浩委員長
八木委員

ありがとうございます。他ございませんか。はい、どうぞ。

この地域は、しずマップで見ても多分都市計画区域外になるのですか。用途地域に出てこないの、都市計画区域外の地域も、せっかくこういうものを作るものですから、活性化するやり方を検討していただきたいです。なかなか他の市町村でも、せっかくこの辺りいいな、IC ができていいなと思っても、実は調整区域であるなど、その用途地域などが都市計画に関していろんな制約が出てしまうと寂しい話になってしまうので、ぜひ総合的な知見で進めていただきたいと思います。

小川浩委員長

どうもありがとうございます。それに対して何かございますか。要望等も含めてだと思えますが。

道路計画課

都市計画区域外、市街化調整区域、都市計画区域内であっても、市街化調整区域なかなか開発というのが難しい部分があるかと思います。ただ、総合的にもう少しいろんな政策を絡めていけば、可能性はあるかと思っています。また引き続き考えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

小川浩委員長

よろしく願いいたします。他ございませんか。よろしいですか。私が一番懸念しているところは、災害対策です。今回新しいルートができたことで、孤立する比率は極めて低くなってきたと捉えてよろしいですか。

道路計画課

今まで IC がないときは、確かに県道と言われるものであっても、かなり脆弱で、何かあるとすぐ通行止め、孤立、そういうキーワードが浮かびましたが、IC ができることで、バイパスとかオーバーパスするルートができて、孤立の可能性は低くなると考えています。ただ、天候や地盤など、多種多様な要因はあるかと思っていますから、それも含めて、なるべく安全安心な生活が

確保できるように、拠点整備をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

小川委員長 わかりました。よろしくお願いいたします。それでは、今回のこの案件に関しまして、対応方針は妥当であると市長に答申したいと思いますが、よろしいでしょうか。はい、どうもありがとうございます。

(2) 補助事業（改築）（主）清水富士宮線（事後評価）

<道路計画課 説明>

小川浩委員長 ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問等ありましたら、よろしくをお願いいたします。居波委員どうぞ。

居波委員 7枚目のスライドの事業効果の発現状況について、交通混雑の緩和、（主）清水富士宮線を中部横断自動車道の開通による清水・いはら IC の利用増加に伴い利用量が増加したと書いてあって、増加したのはどの道のことですか。この赤いところですか。IC の利用が増えて、今回のところの交通量が減ったということでしょうか。

道路計画課 元々、赤い道がなくて、供用していたというところですが、今回赤い部分が整備されて開通したことで、そこの利用量が上がったということです。IC の利用が上がって、この利用も効果があったということです。

居波委員 そうすると、この事業のおかげで減ったというふうに言えるかどうかというのが、ピンとこなかったのですが。必要な道路だと思うのですが、なんとなくまとめ方がよくわからなくなってしまいました。

小川委員長 私も居波委員と共通して疑問に思ったのですが、5ページのところです。整備したら、ものすごく交通量が減ったというところに違和感があります。ルートがたくさんできたから、分散効果が発揮したということではないですか。せっかく道路を作ったのに、交通量が減ってしまったら、何のために道路を作ったのかということになりかねないですね。いかがですか。

道路計画課 今グラフに示している交通量が減ったというのは、現道、つまりバイパスを作る前の道路になります。これがバイパスを作ることで、交通量が増えました。一方で、いはら IC は、この新しい赤い道路ができたおかげで利便性が良くなり、この赤い道路に交通が乗かって、いはら IC がさらに使われるようになったということになります。

居波委員 古い道路の場合は、通りにくいか、そういう障害があったので、清水いはら IC の利用があまり伸びなかったのですが、赤いアクセスの良い道路ができたことによって、清水いはら IC の利用が増えた。それに伴って、昔の道路とかは交通量が減ったということですかね。

道路計画課 その通りです。

居波委員 わかりました。ありがとうございます。

小川浩委員長 今の説明を聞くとわかりますが、この5ページの表にも工夫がいるのではないのでしょうか。

道路計画課 台数が減っているように見えてしまうということですよね。

小川浩委員長 そうですね。だから、ルートが増えたのだから、むしろ全体の交通量が増えて、分散がされたというような表記を工夫された方が間違いないと思うので、ご検討お願いいたします。

道路計画課 ありがとうございます。

小川浩委員長 ほか、いかがですか。小川委員どうぞ。

小川敬多委員 いはら IC の利用が増えたということなんですけども、それは、従来は別の IC から乗っていて使ってる、本来遠回りしながら別の IC を使って、なんとかしてこのジャンクションを通っていたのか、それとも、これができたことによって今まで全然流通のトラックが来なかったところが、新規参入できているようになっているのか、どちらになりますか。

道路計画課 実質、清水 IC を使われている方が、いはら IC に転換したというのもあるかと思います。ただ、新たに清水富士宮線ができたので、進出してきた企業の方が、新たにいはら IC をめがけて、そこに進出して利用されているという実情もあります。

小川敬多委員 効果としては、清水 IC 付近の混雑の緩和にも貢献しつつ、新規業務というところも合わせて考えてもいいということになりますか。

道路計画課 ただ、混雑の緩和というところだと、ちょうど今、清水立体事業というので国道一号バイパスの整備をされているため、その渋滞の影響もあって、目に見えて混雑が解消できたかというところ、そこまではいかないですが、ある一定の効果があつたのではないかなと思います。

小川敬多委員 ありがとうございます。

小川浩委員長 ほか、いかがですか。八木委員どうぞ。

八木委員 赤い道ができる前の、緑のところについてです。あの辺りは、庵原の小学校や中学校があつて、生活地域ですよ。そこに、5ページを見ると交通量1日何千台とか通ってしまうと危なくて、IC 作ったのはいいですが、そこにいろんな車が入ってしまうと、子どもたちの通学など安全上の問題があると思います。この赤い道ができたことで、生活道路と産業や事業用の道路のすみわけがきちんとできて、地域が安全に開発されるように誘導できているということだと考えたのですが、そういうことでよろしいですかね。

道路計画課 効果があつたと思います。新たにできた道路についても、4車線で歩道付き、今までやった旧道の部分については2車程度ありますが、部分的に歩道

がないなど狭い道路も多かったので、そういうところで、日常生活に使う道路と物流産業に使う道路と、すみわけができたという効果もあるかと思います。

小川浩委員長 資料の7ページ目で、事業開始前と開始後の写真を比較していますよね。これは同じ場所で写真を撮っていますか。

道路計画課 角度が若干違いますが、事前に資料配布させていただいた時にそういったご指摘いただきまして、写真を同じ場所のものに差し替えさせていただいています。

小川浩委員長 ということは、道路幅員も若干広がったのですか。それはいいですか。

道路計画課 ここは現道ですので同じ状況になっています。

小川浩委員長 わかりました。島田委員どうぞ。

島田委員 事業効果の発現状況のヒアリング調査ですが、6社というのは少ないような感じもしますがいかがでしょうか。また、1社アクセス性が向上してないと答える企業もいて、それはなぜなのかが気になります。当該区間の開通により多数の企業がアクセス性が向上したと回答の多数の企業というのは、この6社以外にたくさんこの地区の企業に別の調査をしたのですか。それとも多数というのはこの6社中の5社だから多数と書いてあるのですか。

道路計画課 6社のうちの5社という意味で多数と記載させていただいております。1社アクセス性が向上していないと回答がありますが、こちらは赤い道路が開通した後に周辺に立地してきた企業で、バイパス開通前の状況がわからないということを理由にこのような回答にしております。右の一番下のところにあるコメントが後から進出してきた企業ですが、このバイパスの拠点立地のアクセス性の高いところを良さに感じて立地してきたということになっております。

小川浩委員長 その点いかがですか。確かに多数という表現が引っかかるところかもしれませんが、どうですか。

島田委員 たくさん企業あると思うので、ヒアリング調査を受けたうちの6分の5の企業と記載したほうが良いかもしれないです。多数の企業というもつと100社とか200社とかアンケートして調査したのかなと思ってしまうので、事業効果の発現状況を言うときに少し言い過ぎかなと感じてしまうのですが、いかがでしょうかね。

道路計画課 その点については修正します。

小川浩委員長 ほかにございませんか。それでは集約します。今の多数という部分と、それから5ページの交通量の変化が少し誤解されるような表記になっていますから、修正していただくという条件で対応方針を決めてよろしいでしょうか。今の2点を修正したものの提出をもって、妥当であると答申したいと

思います。どうもありがとうございました。

(3) 大規模雨水処理施設整備事業（追分二丁目地区）（再評価）

<下水道計画課 説明>

- 小川浩委員長 ただいまのご説明につきまして、ご意見・ご質問いかがでしょうか。
- 島田委員 シミュレーションを見ると、この事業を実施しても浸水してしまう地区がありますが、枝線をもう少し整備すれば、さらに浸水地区を減らせる可能性はありませんか。
- 下水道計画課 可能性はあります。
- 島田委員 それは費用対効果が悪いからやらないということですか。
- 下水道計画課 現在雨水幹線を整備していますが、枝線の部分は、現在ある道路側溝などを雨水の処理に見込んでいるため、整備効果としては数字に表れにくいところにはなと思います。
- 島田委員 そうすると、シミュレーションで取り残されてしまう人たちは、出前講座等で危険だから雨が降ったら逃げてみたいな感じでフォローすることになるのですか。
- 下水道計画課 ソフト対策としては、浸水常習地区等には、大雨の予報が出た時には避難してくださいということを併せて行っているので、申し上げにくいですが、確かにそのような場所が残る可能性はございます。また、あくまでもシミュレーションですので、実際の雨量と異なる場合、なかなか想定しにくところもあります。
- 小川浩委員長 確かに完全にゼロにはならないので、そこは非常に厳しい部分があると思いますが、いかがですか
- 島田委員 私はここに住んでいませんが、住んでる人が今の話を聞いたら、うちは見捨てられているなと感じると思いますが、どうでしょうか。
- 小川浩委員長 対策後の青で示されている箇所は確かに残りますが、可能性は下がったと言えるのですか。
- 下水道計画課 取り残されるという言い方が誠に申し訳ないとは思いますが、被害の軽減を目的にやっているところがあります。12 ページの資料では、今回の対策をすることで色がついた浸水箇所はかなり軽減する結果となりますが、委員がおっしゃったとおり、一部色のついた箇所は残ります。今申し上げたことと重なりますが、被害をハード整備だけで完全にドライにするのはなかなか難しく、我々その被害を軽減するということは目標の一つにしています。整備前は、赤で示したかなり浸水深が深い、例えば 45 センチ以上の浸水が発生する場所が完全になくなり、青い部分の 10 センチ、20

センチほどの浸水がごく一部残る結果となっています。一般的に 45 センチを超えると床上浸水や床下浸水が発生すると言われているため、一部道路冠水のような浸水が残りますが、ハザードマップを事前に周知する等、ハード対策に併せてソフト対策もやっているところです。

小川浩委員長 特に地域住民には、誤解が生じないように、広報等でしっかりと知らせようお願いしたいと思います。他いかがですか。

居波委員 実は私は平成 15 年の時にこの辺りに住んでいて、オートバックスの裏を自転車で走ったら、ハンドルより下のあたりが全部水に浸かる状況でした。この対策をぜひやっていただきたいと思います。例えば 21 ページのところに、入江 1 号雨水幹線が令和 2 年度完了とあり、令和 4 年に台風 15 号がきて、清水が断水になった大きな被害があったと思いますが、その時はこの辺りの被害というのは全然なかったのでしょうか。

下水道計画課 実際に被害はありましたが、それが何件かというご質問でしょうか。

居波委員 令和 2 年度に事業が完了したということは、この辺りで大雨が降っても、ある程度被害は軽減された実績が得られたのかどうかという質問です。

下水道計画課 降る雨によって、この効果が変わってくるところはあります。公共事業のため、対象降雨を設定しますが、いわゆる 7 年に 1 回程度の強い雨に耐えられるよう想定して設計しています。令和 4 年の台風 15 号は 100 年に 1 回ほどの大きすぎる雨で、通常は一山で終わる設計ですが、二山大きい雨が重なり、長時間続く降雨であったということもあり、実際この場所はかなり大きな浸水が発生しています。13 ページに示すとおり、100 ミリの雨が降った場合、これは一山という勘定になりますが、比較的大きな効果が期待できるということもシミュレーション結果では確認しておりますが、令和 4 年の台風は、さらに強い雨が長く続き、浸水が生じたという結果になっています。

居波委員 わかりました。ありがとうございます。

小川浩委員長 はい、他はいかがですか。

小川敬多委員 この対象範囲の決め方を教えていただきたいです。このシミュレーションを見た時に、先ほど話もありましたように、どうしても浸水箇所は残ってしまうということで、例えば対象範囲の左側の少し黄色が残るところは、これは実質的には今回はもう改善はないという、実質の改善の対象外という理解でいいのでしょうか。

下水道計画課 13 ページのあたりでしょうか。

小川委員 はい。

下水道計画課 対象範囲ではありますが、計算上の 25 メートルメッシュで実施するた

め、実際は浸水被害がないのかもしれませんが、計算上で出てしまう可能性はあります。

小川敬多委員 シミュレーションを見た時に、真ん中の赤い部分が大幅に改善するというのはわかりますが、ポイントで見た時に左上の部分は軽減されているのかどうか。例えばこれが 20 センチのところは 15 センチになっているとか、そういうことがあるのかないのか。あるいは、今回ここは対象範囲で囲われてはいたけれど、今回のこの工事では実際には全く影響はない、課題としては残っている区域だとしたら、ただ対応された区域だという括り方はそこに住んでる方に対してどうなのかと思いました。今回できなくても、また何かの機会に、未対応地区のような形で残した方が、住民の方にもいいのかなと思います。

下水道計画課 左側の大沢川にすぐ排水しているような小さいエリアですが、正直なところ、今回の事業ではこのエリアの効果としては確かに変わらない部分があります。今回下水道事業の排水区という単位で進める建て付けになっているため、このような作業をしています。浸水状況としては、床上浸水、床下浸水等の被害履歴を見ても、この部分は大沢川が溢れた時に浸水してしまう場所で、内水対策として改善がしがたい部分があります。まずは内水対策として力を発揮できるような、逆川や大沢雨水幹線の整備をやっている状況です。

小川浩委員長 よろしいですか。

小川敬多委員 おそらく排水区の関連があつての境界の引き方だと思いますが、境界のルールまで把握していなかったので、聞かせていただきました。それをなしにして単純に思ったのは、今回の事業で完全にゼロにするのは難しくても、課題としては次に引き継いであげた方がよいと思います。解決したとまとめられるとかわいそうだという気はするので、可能であればご検討ください。

下水道計画課 ありがとうございます。

小川浩委員長 よろしく願いいたします。他いかがですか。

八木委員 21 ページについて質問します。今回、余裕の見込める大沢雨水 1 号幹線の事業が完了していますが、6 ページを見ると、内部のところはかなり低地で、桜ヶ丘、岡、上清水など、その辺りの丘を越えて巴川の方がまた低くなっています。この大沢雨水 1 号幹線の 21 ページでいうと、1.8 メートルから 2 メートルの管が道路の中に埋まっているということですが、管底の標高は水上側はいくつで、巴川の水下側ではいくつでしょうか。勾配は結構取れていますか。

下水道計画課 TP 表示がありますが、具体的な数字がすぐ出てきません。委員がおっし

やった、上流側と巴川のはけ口の部分に標高差が約 10 メートルぐらいあり、高低差で水を流す設計になっています。

八木委員 10 メートルの高低差で、長さが 1 キロ少しですか。それは排水の余裕という面ではどうですか。管の太さにもよりますが、他の地域等見てみて、どんなものでしょうか。

下水道計画課 設計上は十分流れるようになっています。例えば、巴川の勾配にしてみると、巴川は 1/2000 と言われています。2 キロ行って 1 メートル上がるという、それぐらい緩やかな川に対しては、かなり勾配的には確保できる、十分水を流せる設計となっています。詳細な勾配や高低差は調べさせていただきますので、後日ご報告でもよろしいですか。

小川浩委員長 後ほど別資料で提出ということでよろしくお願いします。

下水道計画課 はい。

小川浩委員長 他はいかがですか。

島田委員 質問ではないですが、大雨等の被害があった後、難波市長が巴川の治水も含めて、精力的に取り組んでいきたいとおっしゃっていたのを見まして、おそらくこれも含めて、市民がすごく期待している事業だと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

下水道計画課 ありがとうございます。頑張ります。

小川浩委員長 最終的には巴川の方に、移流させるかたちをとっていますが、逆に今度は巴川の流量が増えてしまい、下流域で浸水が起きる可能性はないですか。

下水道計画課 その点については、静岡県との協議で、巴川が受け入れられる以上の水量は出さないようにはしております。

小川浩委員長 それは幹線で少し絞り込むということですか。

下水道計画課 絞り込むというより、下流を見越した断面の検討、設計をしております。

小川浩委員長 わかりました。他はございませんか。それでは、先ほどの八木委員からご指摘いただいた勾配等のデータは、後日事務局に提出していただいて、事務局からまた各委員に配っていただきます。それをもって対応方針妥当であると答申したいと思いますが、いかがでしょうか。では了解が得られたので、その方向で進めたいと思います。ありがとうございました。

(4) 社会資本整備総合交付金
市街地住環境の再生（事後評価）
＜景観まちづくり課 説明＞

- 小川浩委員長
島田委員 ただいまのご説明について、ご意見・ご質問ありましたら、お願いします。
全国でコンパクトシティと言われ、高層化して、下にテナントを入れたり上に住居を入れたりする場合があります。個人的には、小さいファサードがある個店がたくさんある街、例えば、金沢のように古い建物が並んで、飲み屋がたくさんあるような街の方が、魅力や個性を感じられます。どこでも同じような高層ビルで、下に入るテナントは全国チェーンのドラッグストアやコンビニとなると、静岡の魅力が薄れているように感じ、怪しい占い屋や寿司屋があった時の方が味があったような気がします。コンパクトシティは、全国では失敗例もあるようですが、まちづくりの方向性についてどのようにお考えですか。
- 景観まちづくり課 現在、静岡駅周辺では、まちなかの再生指針を作成中です。委員のおっしゃる通り、高層ビルばかりではなく、例えば呉服町通りでは、低層４階の建物が並んでいますが、住宅を積んで高くする必要はないのではということで、低層化を維持した街並み誘導をできないか検討中です。それに沿って、再開発の手法や支援の仕方についても、必ずしもマンションを積むだけが再開発ではないという考え方は我々も持っていて、低層の街並みづくりに再開発の手法を合わせて、新しい支援制度を目下検討中です。まちなか再生指針では、駅前が高層化、その奥に入ると今の呉服町通りのように低層化など、メリハリをつけた街の更新を目指していきたいと考えています。
- 小川浩委員長 ありがとうございます。若者が増えてきていることは、間違いないですよ。私もここを何度か通りましたが、駅からの利便性が非常に上がったと感じています。他にございませんか。
- 松浦委員 感想です。補助が１４％で済んだ再開発は、おそらく他にないので、事業者さんについては本当にありがたかったなと思います。地下道の整備で、けやき通りにそのまま出られるようになったという意味で、その立地を生かした再開発事業になったので、その点でも感謝しています。
- 小川浩委員長 ありがとうございます。大学や専門学校が入っていますので、事業費の負担はされているのですか。
- 景観まちづくり課 再開発としての補助ではなく、学校を誘致するための補助が他部署であります。その補助金を活用して、その床作りもしています。先ほどの数字プラスアルファの部分が入っているイメージです。
- 小川浩委員長
島田委員 わかりました。他にございますか。
一つのコーナーに小さな店がたくさん入るような、例えば一区画につき月に１～２万円で店が出せるようなスモールビジネスを若者がやっている流れもあると聞くので、呉服町に低層で店が出しやすいようなスペースがもしできるなら、若者が新しいことができる、そんな仕掛けもどんどん作っ

ていただけると街が楽しくなるのかなと思います。

景観まちづくり課

前のスライドで草薙地区の話をしました。あそこは県立大学や常葉大学の学生が地域のまちづくりに入って活躍しています。こちらでも学校が入って生徒さんも来ていただいているので、御幸町伝馬町商店街の地域づくり、呉服町も含めて、ぜひ学生さんにも活躍できる場を提供して、市としてもバックアップしてまちづくりができればと思っています。

小川浩委員長

まだ数字としては掴み切れていないと思いますが、周辺の集客数も増えてきているのですか。

景観まちづくり課

周辺の売上はまだ掴み切れていないですが、肌感では、交通量はこちらの方に流れてきていると思います。ただあまり流れ過ぎてしまうと呉服町の方もあるので、バランスを見ながら更新ができればと思っています。

小川浩委員長

他いかがでしょうか。

八木委員

けやき通りの方から cosa の建物の1階のピロティ空間になっているところに入ると暗くて、もったいないなと思っています。静鉄と静岡駅をつなぐ、ウォークスルーというか、通り抜けられるのが魅力だと思いますが、けやき通りの方からそのピロティへ入ろうとすると、抜けているように見えなくてですね。補助金出して施設の運営にどこまで口を出せるかは分かりませんが、あのピロティも1.5階分くらい高いわけではないので、もっと明るい感じにしていいただけるとありがたいし、明るい雰囲気であれば3階の子どもの施設のイメージがつくと思います。初めて静岡市に来た方は、この施設への入り方がイメージできないと思うし、少しの操作でもっと爆発的に良くなる可能性を秘めていると思うので、引き続き議論を進めてもらえたらと思います。

小川浩委員長

ありがとうございます。私も何度かここ通っていますが、確かに暗いですね。照明など工夫はあると思いますので、ご検討いただければと思います。それではないようですので、対応方針としては、妥当であると判断したいと思っています。ありがとうございました。